

① チームエントリー

チームは 12 名以上 20 名以内とする。(出場チームには 2 名以上女子が含まれることが条件)

② 試合人数

12 対 12 で試合を行う。(試合出場者には女子 2 名以上参加が条件)

例：10 名男子 2 名女子で試合に参加する予定だったが、女子が 2 名体調不良で、男子のみのチームになった場合は、10 名男子での参加になる。女子がいないから 12 名の男子での参加とはならないので注意。

③ メンバー交代について

- 1) セットが始まると、そのセット中におけるメンバー交代はできない。
- 2) ケガをした場合、緊急時のみセット中でも交代可能とするが、交代した選手は交代したそのセットはコートに戻れない。セットが新しく始まる場合は交代可能とする。

④ ボールサイズ

円周 65cm のソフトバレーボールを使用する。

(型番 S2Y1250 大きさは既定の 65 c m で使用する)

⑤ コートサイズ

- 1) 3・4 年生、5・6 年生の部は公式サイズとほぼ同じサイズのコートを使用する (チャンギ校コートを採用)。※前日準備の際に最終決定。
- 2) 1・2 年生の部は外野の動ける範囲を広げ、センターラインまでの移動を可とする。

⑥ セットアップ

試合を始める時点で、外野は必ず 2 名以上とする。

⑦ 試合開始

- 1) 第 1 セットのみジャンケンで決める。勝った方からボールを投げスタートする。第 2 セット以降は前のセットで負けたチームからのボールスタートとする。第 1 セットが引き分けの場合、第 2 セットは最初のジャンケンで負けたチームからのボールスタートとする。
- 2) サドンデスの場合はジャンケンを行い、ボールのスタートを決める。

⑧ 試合

- 1) 試合時間 1 セット 5 分間
(基本的にストップウォッチはとめないが、ケガ・審判間での判定審議などの場合は審判の判断でタイムキーパーに中断・再開の指示を行う)
- 2) 試合方式
・ 総当たりの 2 セット
- 3) 試合終了
・ 以下の時点で試合終了とする。
 - a. 試合終了の合図になった時点。
 - b. 相手チームが全員アウト (全滅) になった時点。

⑨ 勝敗の決め方

- 1) 試合終了までに相手チーム全員をアウトにした場合、勝ちとする。
- 2) 試合終了の合図になった時点で、内野の人数が多いチームが勝ちとする。
- 3) 各セット終了時に内野の人数が同じ場合、引き分けのまま終了する。
- 4) 各セット終了時の内野に残った人数を合計したものを勝敗とともに記録し、各チーム代表に確認する。2 セット終了時に 1 勝 1 敗の場合は内野の合計残人数で勝敗をつける。内野の合計残人数も同じ場合は、試合を引き分けとする。

5) 最終的な集計時に、勝ち点および全試合の総内野野残人数が同数の場合のみ、抽選で勝敗を決める。ただし、直接対決で勝敗がついている場合はその勝者を上位とする。

⑩アウト

内野の選手が相手チームの投球したノーバウンドのボールをキャッチできなかつたり当てられたりした後、ボールがコートや壁についた時点でアウトとなる（ボールをつかんでいるがコートについた場合もアウトとなる）。ただし、いったんボールをキャッチした後、転ぶなどで地面についた場合はアウトとならない。また、ボールがコートや壁に当たらなくても、相手チームの選手がキャッチした場合もアウトとなる。同じ投球が2人以上の内野選手に当たった場合は、最初の選手のみアウトとなる。アウトになった選手は、ボールに触らず、すみやかに外野に出る。アウトになった後に故意にボールに触れた場合は、相手内野ボールとなる。※日本人会ドッジボール大会ではソフトバレーボールを使用するため、体の全ての部分（頭、顔など）に当たってもアウトとする。

⑪セーフ

- 1) 相手チームが投げる際にファールがあつて当たった場合（オーバーラインなど）はセーフとする。
- 2) アシストキャッチが成功した場合はセーフとする。アシストキャッチは複数の味方でも成立する。

※アシストキャッチ＝相手チームの選手が投球したノーバウンドのボールが内野の選手に当たった際、そのボールが空中にある間に味方の選手がファールなくキャッチできた場合、セーフとなる。ただし、アシストキャッチを試みた選手がオーバーラインをしてキャッチをした場合、そのキャッチは無効となりそれに伴い当てられた選手はアウトとなる。

⑫アタック

原則的にアタックとは、ノーバウンドの投球で、相手の内野選手が自然体で立った状態の肩の線より下をボールの上部が通り、さらに内野選手が両手を広げた範囲をボールが通ったと審判が認めたものとする。選手がアタックの意図を持って投げたと判断した場合、アタックとカウントする。



⑬アタックに関するファール

a. オーバーライン

インプレイ中にボールを持った選手やボールを投げる選手はラインを踏んだり（2歩目以降もアウト）、ラインを越えたりしてはいけない。投球時、踏みだした足が1歩目となる。オーバーラインをした場合、相手チームの内野ボールとなる。

b. ボールを指でつまんで投げるのは禁止し、違反した場合、相手チームの内野ボールとなる。

⑭パスに関するファール

a. ファイブパス

パスは、ファールやアウトがない状態で4回目のパスが成功すると、キャッチした味方は必ずアタックしなければならない。5回目のパスが成功した時点でファイブパスのファールとなり、相手チーム内野ボールからのスタートとなる。内野間・外野間のパスもファイブパスにカウントされる。3～6年生のみ適用する。審判は指を増やす形でパスカウントを示す。

※ボールデッドになった場合でもカウントは継続する。（3～6年生）

b. キープ・フォー・ファイブ（オーバータイム）

ボールをキャッチしてから5秒以上持っている場合、ファールとなり相手の内野ボールとなる。ただしキャッチ時に転倒した場合は、立ち上がってから5秒数える。（1・2年生は厳格には判定しないが、すみやかにプレーするようにする。）

c. オーバーライン

アタック時と同じとする。

⑮キャッチに関するファール

a. オーバーライン

- ・ キャッチをする際、**ラインを踏んだり越えたり**してはいけない。踏んだり越えたりした場合、ファールとなり相手ボールとなる。
- ・ センターラインでファールがあった場合は、相手チームの内野ボールとなり、サイドライン、エンドラインでのファールは相手チームの外野ボールからのスタートとなる。
- ・ アタックを避ける際も、外野に出ないようにする。繰り返される場合は、審判が警告する。
- ・ **外野の外側のライン（緑）を外野が踏んだ場合は、ファウルにはならず、ボールデッドと同じ扱いとし、外野のボールアップで試合再開とする。**
- ・ **ボールデッドゾーン（☆）（赤）（外野のセンターラインから3Mのゾーン）のラインを踏んだ場合は、相手内野ボールとなるので注意。**
- ・ **ボールデッドゾーン（☆）のボールデッド基準は緑のラインから出たところとする。途中でボールが地面についても、カウントせず緑のラインから出た場所とし、出た場所に近い外野のボールとする。**

⑯ヘルドボール

同時にボールを掴んだ場合、転がっているボールがある陣地のボールとする。判断がつかない場合はジャンケンとする。

※基本的に自陣以外の位置にあるボールには触れてはいけない。

⑰外野から内野に戻る条件

- ・ 相手の内野を当てた時点で、チームの外野が自分以外の2人以上いる場合、外野から内野に戻ることができる。
- ・ ただし、ゲーム再開後も外野にいた場合は、再度当てないと内野に戻れない。一度プレイに参加（パスなど）した段階で、内野に戻る権利を失う。
- ・ 相手の内野を当てた後、すみやかに内野に入らなければならないが、パス回しが続いている場合などは、一度主審横に待機し、主審の合図でコート内に入ることができる。
- ・ 試合開始時に外野にいる選手（元外野）も相手内野選手に当てることで、自コートへ戻ることができる。元外野も、当てずに自コートへ戻ることにはできない。

⑱ボールデッドとボールの支配権

- ・ 試合中、コートの外（コート図の黄色エリア/壁を含む）にボールが出るとボールデッドとなる。
- ・ 相手チームからの投球が体に当たり（アウト）、ボールデッドとなった場合は、アウトにしたチームのボールとなり再開する。内野・外野いずれか近いエリアからボールアップでスタートする。ボールデッドとなるまでに、ボールがバウンドしたかどうかは考慮しない。
- ・ それ以外のボールデッドは、ボールのある側の外野エリアから再開する。
- ・ 審判・観客に当たってボールデッドとなった場合は、審判・観客がいない場合に出たエリアとする。
- ・ 選手以外人間がボールを外野に戻してもよい。
- ・ 1・2年生の部は、ファールの場合やボールが観客席方面へなど大きくそれた場合以外は試合を止めずにボールのある位置から審判が判断しゲームを続行する。

⑲ボールアップ

以下の場合、**頭上にボールを上げて静止**し、審判の笛で投球を許可する、ボールアップを行う。

- ・ 試合開始時およびセット開始時。**（ボールアップはするが、動いている場合は主審が注意する）**
- ・ ファールの後、ゲームを再開する場合。
- ・ ボールデッドとなった後、ゲームを再開する場合。

コートの外から助走をつけて投げることは禁止し、必ずボールアップしてから投げる。外野から助走を

つけて投げたボールが相手内野選手に当たった場合は、アウトとならない。

⑳ フライングスロー

ボールアップの際、審判の笛の前に投げた場合は、審判が注意し、再スタートとなる。ただし、何度も繰り返し注意された場合は、フライングスローのファールとなり、相手チームの内野ボールとなる。

㉑ コートサイドコーチについて

コートサイドへの立ち入りは代表者1名+アシスタント1名の合計最大2名までとする。審判が指定した場所内（黄色の枠内）にとどまり、外野範囲への立ち入り・エンドラインへの立ち入りはできない。コートサイドコーチの設置は任意とする。

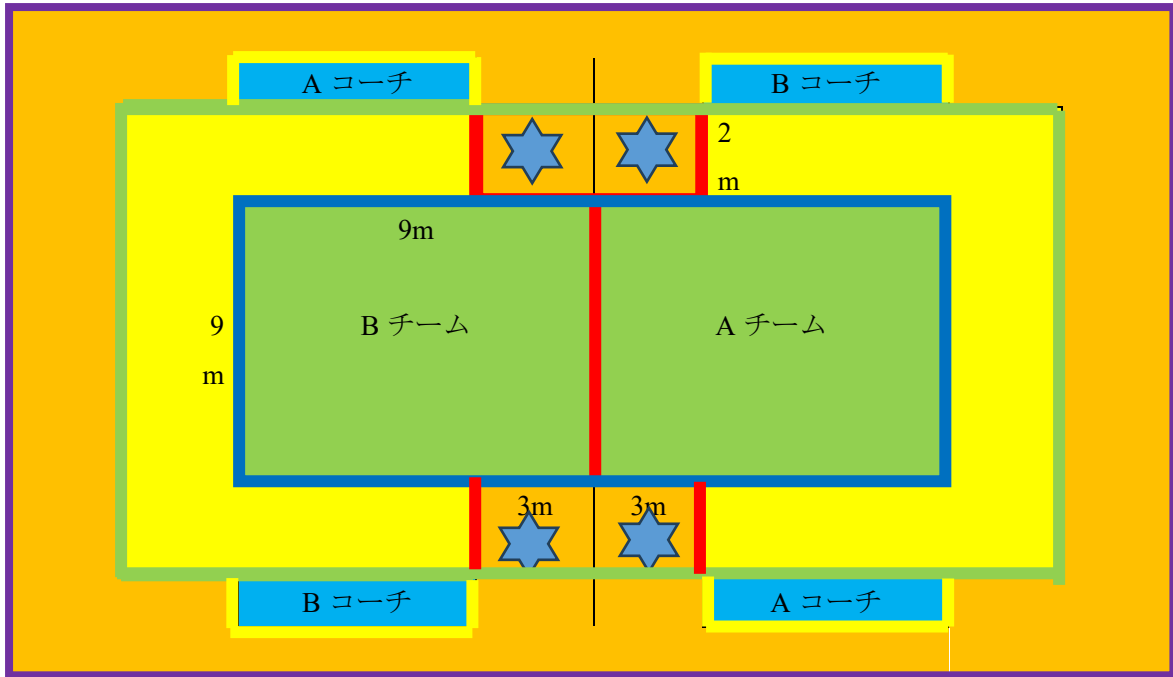
※審判・選手の混乱を避けるため、コートサイドコーチ・観客とも、判定に関する発言は行わないようにする。

※審判、コーチ、線審は1階の会場に入場できるが、ほかの保護者は2階の観客席からの応援とし、1階の会場には入場できない。

【ルール一覧表】

○・・・日本ドッジボール協会と同じルールを採用 △・・・日本人会用にルール変更 ×・・・採用しない

	ルール	日本ドッジボール協会	5・6年生の部	3・4年生の部	1・2年生の部
①	チームエントリー	12名以上20名以内	○	○	△12名
②	試合人数	12対12 (各チーム女子2名以上試合出場)	○	○	△12名
③	メンバー交代	試合中なし、ケガのみ交代	○	○	○
④	ボールサイズ	円周65cmのソフトバレーボール	○	○	○
⑤	コートサイズ	9m×9m(3・4年/5・6年) 8m×8m(1・2年) (チャンギ小の状況に合わせる)	○	○	△(内外野範囲)
⑥	セットアップ	外野1名以上11名以下	△2名以上	△2名以上	△2名以上
⑦	試合開始	ジャンプボール	△ジャンケン	△ジャンケン	△ジャンケン
⑧	試合終了、時間	全滅または終了の合図 1セット5分	○	○	○
⑧	セット方式	3セットマッチか2セットマッチ	○	○	○
⑨	勝敗の決め方	全滅または内野の多い方	○	○	○
⑨	引き分けの場合	大会による(基本サドンデス)	予選では引き分けのまま終了。決勝トーナメント/リーグは内野同数で終了の場合、サドンデスを行う。		
⑩	アウト	当たった最初の選手のみ	○	○	○
⑫	アタック	オーバーライン	○	○	○
⑬					
⑭	パス	ファイブパス	○	○	×
⑮	パス	オーバータイム、オーバーライン	○	○	○
-					
⑰					
⑳	その他	フライングスロー	○	○	○

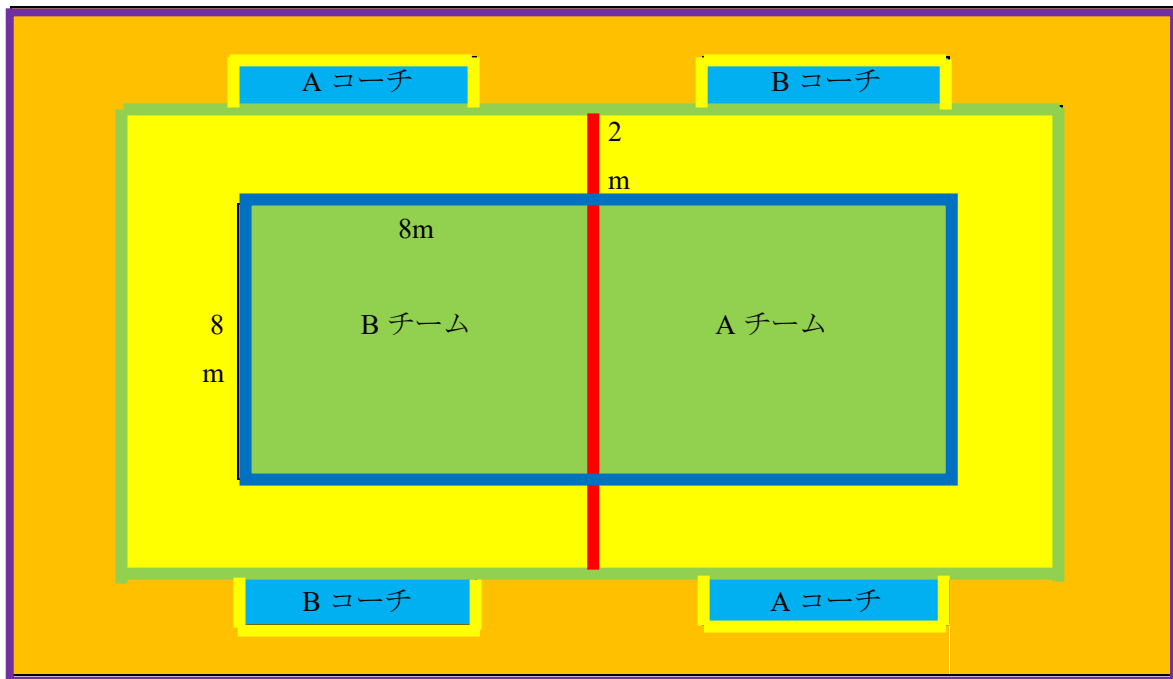


センターライン・デッドライン → 赤 (17m*2=34m) 各会場 5 個

内野ライン → 青 (54m*2=108m各会場 15 個 / 外野ライン → 緑 (70m*2=140m) 各会場 20 個

コーチボックス 黄色 (32m*2=64m) 各会場 10 個

1・2年



センターライン → 赤 (12m) 5 個

内野ライン → 青 (48m) 15 個 / 外野ライン → 緑 (64m) 20 個

コーチボックス 黄色 (32m) 10 個

赤 テープ 34+12=46m*2 倍=92m

青 テープ 108+48=156m*2 倍=312m

緑 テープ 140+64=204m*2 倍=408m

黄 テープ 64+32=96m*2 倍=192m